

I めざす学校

1 学校教育目標

「自ら学び、ともに考えようとする子どもの育成」

2 めざす学校像

- (1) 児童が主体的・協働的に学び活動する学校
- (2) 家庭、地域と協働して子どもたちを育む、地域とともにある学校
- (3) すべての教職員が働きがい、生きがいのある学校

3 めざす子ども像

- (1) 自ら考え、行動する子
- (2) とともに考え、高め合う子
- (3) 人とのつながりを大切にする子

4 めざす教師像

- (1) 信頼される教師
- (2) 高まり合う教師
- (3) 教育に情熱をもつ教師

II 経営方針と達成に向けた方策※()内は育成が期待される非認知能力の要素

1 子ども同士がつながり、秩序があり安心できる仲間づくりをする。

- (1) 自己肯定感の育成：子どもがつながり認め合う機会を意図的に作る、達成感のある活動をさせる、大人からほめられる機会を作る（自己肯定感）
- (2) 正しい児童理解と適切な対応：発達障害、愛着障害の理解と対応の研修（自己肯定感）（社会性）（自制心）
- (3) 不登校対策の強化：校内委員会の設置、児童生徒理解シートの活用（社会性）（自制心）
- (4) 規範意識の育成：教職員の一貫した日常的指導、生指案件の適切な指導と組織対応、教職員と保護者の徹底したいじめを許さない意識（社会性）（自制心）
- (5) 人権教育の推進：行動できる力を育成する、教職員の人権感覚を磨く（やりぬく力）

指標「自分には良いところがあると思う」【目標：80%】（自己肯定感）

「将来の夢や希望を持っている」【目標：80%】（社会性）

2 学力向上をめざし、主体的・対話的な学び方の授業を創造する。

- (1) 授業の改善：子どもが主体的に学び仲間とともに考える、よりよい授業（社会性）
- (2) 全学年で積み上げ：学調等の結果から明らかになった課題を、系統的かつ教科横断的に取り組む。（やりぬく力）

- (3) 家庭学習：基礎学力の定着、自主学習で計画的に学習に向かう力の育成（やりぬく力）（自制心）
- (4) 外国人児童の日本語能力を高める：個々につけたい力の明確化（社会性）
- (5) ICTの有効活用：家庭学習と授業のリンクした学びの実現、授業で質の高い活用（やりぬく力）（自制心）
- (6) 読書活動：読書意欲を高める取組と読書環境の工夫、図書を活用
指標学調・みえスタ全国・県平均【目標+5p】

3 地域・家庭とともに教育活動を進める。

- (1) 保護者、地域との信頼関係の確立：迅速で丁寧な保護者対応
- (2) 学校運営協議会との協働：地域人材を生かした地域学習
- (3) 家庭との連携：スクリーンタイム、家庭学習、読書時間の改善
指標学校運営協議会の開催【目標：年6回】

4 教職員が向上心をもって役割を担い、組織的に連携する。

- (1) 校務分掌の平準化：二部会のサポートによる若手の育成
- (2) 組織力向上：相担、担当者、管理職への報告、連絡、相談の重視、PDCA
- (3) 企画委員会の充実：課題を見抜く力と解決のための実践力の育成
- (4) コンプライアンス意識の向上：自分事として捉える。職場で防ぐ意識
- (5) ワーク・ライフ・バランスの意識向上：総勤務時間の縮減、自分磨きとリフレッシュの時間を大切にする、行事や取組の実施方法の見直し

- 指標 ①360時間／年、45時間／月を越える時間外労働年間延べ人数 0人
 ②時間外労働 月平均 30時間以下／人
 ③年休取得 年20日／人、前年度比で年1日／人増加
 ④定時退校日を月2日設定、定時退校できる職員の割合 100%以上
 ⑤放課後開催の会議 60分以内に終了する割合 80%以上

R6年版「チーム清和」の5ヶ条

- 1 組織重視
 - 組織で取組 担任・担当等に一人で背負わせない
 - 組織で対応 個人の弱点は、組織でフォロー、同僚を支える
 - 全員で実行 決まったことは、全員が確実に実行
- 2 報告・相談
 - 同僚に報告・相談 些細なことでも相担・担当に報告・相談
 - 管理職に報告・相談 管理職にも報告
- 3 日々、改善
 - 授業改善 よりよいものを求めることは楽しいこと
 - 学級づくり 子どもの笑顔はうれしいもの
- 4 自分磨き
 - 知識を磨く 教職員の豊かさが、子どもたちの豊かさを育む
 - 感性を磨く 感度のよいアンテナで、子どもの変化を察知
- 5 健康が一番大事
 - 心と体にゆとりを ゆとりをもって子どもと向き合える心と体を保つ
 - 助けを求められる職場 “ムリ”になる前に「ヘルプ」を